

第 245 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 7 年 11 月 28 日（金） 14：30～15：27

場 所：浜田市立中央図書館 2 階多目的ホール

出席者：岡田教育長 杉野本委員 倉本委員 浅津委員 三浦委員

事務局 草刈部長（欠席） 藤井課長 永田担当課長 石橋室長 山本課長
鎌原室長

書記：日ノ原係長 川村主任主事

議事

1 教育長報告

2 議題

(1) 第 3 次浜田市子ども読書活動推進計画の計画期間延長について（資料 1）

3 部長・課長等報告事項

4 その他

(1) その他

1 教育長報告

岡田教育長

それでは皆さん、お集まりいただきありがとうございます。

最初に私から、資料に沿って説明させていただきたいと思う。

① 10 月 30 日（木）中国地区都市教育長会理事会・総会・研究協議会（ワシントンホテル）

10 月 30 日に中国地区都市教育長会が浜田市で開催された。今年、島根県が当番県だったため、浜田市がこれを引き受けた。中国管内から都市の教育長が集い、情報交換が行われた。視察先は島根あさひ社会復帰促進センターであり、参加された方々から、大会運営あるいは視察先について良い評価をいただいた。

② 11 月 13 日（木）B&G 全国教育長会議（東京都）

11 月 13 日に、B&G 全国教育長会議に出席した。この中で、「AI、SNS 時代の国語力と人間形成」と題した講演を聴講した。今、AI が生活やビジネスの世界を大きく変えつつあるが、そうした中で、今後の子どもたちの将来像をどう考えていくかということであった。何を知っているかというよりも、身の回りの困りごとに気づき、それを何とかしたいと考え、話す力を磨き、共感者を増やしていく、そして実際に行動を起こして対応してい

く、そうしたプレゼン能力等が大切になってくるという話を聞き、大変示唆に富む内容だったと思う。そうした、知識だけではなく、これからの生きる力を育てていくことに、教育委員会としても取り組んでいく必要があると強く感じた。

③ 11月17日（月）島根県市町村教育長会議・学力育成会議（島根県庁）

11月17日に、島根県市町村教育長会議・学力育成会議が松江で開催された。文部科学省からデジタル教科書の活用についての説明があった。デジタル教科書の導入については賛否もあるが、一人一人の能力をどう開花させていけばいいのかということ考えたときに、国はデジタルの可能性に注目しているということであり、デジタルの賛否の前に、教科書の内容や分量をスマートにしていくことが重要であるとの考えが示された。

デジタルのことに關していうと、来年度の全国学力・学習状況調査については、紙による解答方式とコンピューターによる解答方式のいずれかを、各市町村・各学校の判断で選択できるようになるとのことである。特に英語のテストについては、イヤホンとマイクがセットとなった機器を使い、英語を聞いてそれに自分が発音して答え、それが評価されるようなやり方も加わるということである。そうした機器がトラブルなく使われるように確認したいと思う。なかなか慣れていないため、これに対して子どもたちがどういう戸惑いがあるのか心配しているが、校長会などでも話をしながら準備を進めていきたいと思う。

④ 11月21日（金）市長表敬（浜田ロータリークラブ、モルック器具贈呈：庁議室）

11月21日には、浜田ロータリークラブからモルックの器具の贈呈を受けた。11月30日には、ロータリークラブの主催でモルックの体験会が開催される予定である。私も実際に体験してみて、県内の教育長の集まりでもやってみたが、モルックは多くの世代と一緒に楽しめる軽スポーツであると感じており、ただ競技力だけではなく、ゲーム感覚で得点を競い合うことができる。浜田でも愛好者が増えているということもあるため、浜田市の軽スポーツの振興を図っていくうえでも、このモルックに少し注目していきたいと思う。

⑤ 11月27日（木）浜田市学校給食審議会（市役所講堂）

11月27日には、学校給食審議会の第1回会議を開催した。

	給食費は3年ごとに改定を行っているが、現在、物価高騰の中で適正な給食費の額について諮問し、検討が始まったところである。
	このひと月の主な活動報告は以上であるが、この件に関して質問等あるか。
杉野本委員	中国地区都市教育長会が浜田市で開催されたということで、何十年に一回という間隔か。
岡田教育長	浜田市で受けたことはないと思っている。
杉野本委員	新聞かケーブルテレビで見たと思うが、アトラクションで子どもが出たとあったが、その様子を聞きたい。
岡田教育長	研修会の後、意見交換会を設けたが、その意見交換会が始まる前に浜田の文化を紹介する時間を設け、小中学校の児童生徒による恵比須を披露して舞ってもらった。私は子供神楽というより、後継者による神楽であると紹介させていただいた。この地域に小さい子どもが石見神楽を一生懸命取り組んでいる文化が繋がっていくというところも見ていただいた。これも参加された方から評価をいただいた点だったと思う。
	その他いかがか。
各委員	特になし。

2 議題

(1) 第3次浜田市子ども読書活動推進計画の計画期間延長について（資料1）

藤井課長	資料1をご覧いただきたい。現在、第3次浜田市子ども読書活動推進計画の計画期間中である。これをこのたび、計画期間を1年延長して、令和9年度までとしたいということでお諮りさせていただきたいと思う。
	1年延長したい背景として、このたび、9月定例会議において、第2次浜田市総合振興計画の計画期間も1年延長というところで議決をされたところである。それを受けて、総合振興計画に基づいた各種いろいろな計画があるが、浜田市の教育振興計画についても、総合振興計画の1年延長に伴い同様に1年延長するというので、先般定例会において委員方から承認を得たところである。
	浜田市子ども読書活動推進計画については、浜田市教育振興計画に基づいて策定しているため、教育振興計画が1年延長されたことに伴い、こちらの計画も1年延長させていただきたいというものである。

	裏面には、1年延長されることに伴い、数値目標の数値を変えているものとそのままにさせていただきたいものと羅列しているため、そちらもご確認いただきたい。
	説明は以上である。
岡田教育長	子ども読書活動推進計画の計画期間の延長についてという議題になるが、何か質問等があるか。
浅津委員	令和8年度と令和9年度は、だいたい同じような数字になっているが、一番上の読み聞かせの回数については、1割くらい増えているのは、それは見込まれているということか。伸びてきているため、ここだけ増えているということか。
藤井課長	この数値目標を設定するにあたっては、担当課の各課長が一堂に会して、現在達成できていない目標については現状のまま、翌年そのままの目標で、すでに達成しているものや令和7年度中に達成されそうな目標については回数や数字を増やすというかたちで、各課の方で実現可能な範囲で目標値を設定している。
浅津委員	承知した。
岡田教育長	その他いかがか。
各委員	特になし。
岡田教育長	ご質問等ないようであれば、第3次浜田市子ども読書活動推進計画の計画期間を1年延長することについて、ご了承いただけるか。
各委員	全会一致で承認
岡田教育長	ありがとうございました。

3 部長・課長等報告事項

草刈部長 (代理：藤井課長)	令和7年度 一般会計補正予算（第6号）説明資料（資料2） 資料2をご覧いただきたい。令和7年度 一般会計補正予算（第6号）について説明させていただく。こちらは、令和7年12月浜田市議会定例会の一般会計補正予算の第6号となる。12月議会は、12月1日から17日までの17日間の予定であるが、その初日に提案する補正予算となっている。当初予算の編成以降に生じた経費の追加と、現時点で事業費が確定して不用額が見込まれる事業費の減額等を12月補正で行っている。 予算規模については、このたびの補正額が、357,603千円増額ということで、補正後の予算が、45,760,595千円となる予定である。
-------------------	---

今回の補正において、教育費の中で2件、増額の補正を要求している。

ページをめくっていただき、2枚目の中の10のところに教育費がある。教育費の14番が、益井俊雄奨学基金積立金になる。こちらは、8月の定例会で報告させていただいた、浜田市出身の故益井俊雄氏のご姉妹が故人の生前の意思を継がれ、将来に夢や目標を持つ若者が経済的理由から、文化芸術・スポーツ活動や海外留学等を諦めることがないように支援する奨学金制度を創設したいという思いを持たれており、浜田市の方へ今年の8月に120,000千円の寄附をいただいたものを基に基金として積み立てているものである。

なお、このタイミングで歳入の方も併せて寄附金として120,000千円増額の補正を行っている。

次に番号15番の学校給食費物価高騰対策事業である。こちらについては、今年度学校給食費の物価高騰対策事業ということで、当初のところで、お米の高騰分として1食あたり約27円、6月補正でおかず等の副食費の高騰分として、1食32円それぞれ給食の食材費への補助を実施しているが、10月の新米の流通のタイミングでさらにお米が値上がりしており、昨年度kgあたり334円であったお米が、今年度の当初は670円ということで、その差額が336円であった。このたび新米が930円になり、昨年度に比べて、kgあたり596円という大幅な値上げ額となったため、今の給食費で質と量を確保することが難しいという判断をして、今回7,933千円増額補正しているが、これは1食あたりに換算すると約22円お米分を追加で補助することになっている。これで現在、給食1食あたり81円を補助するというかたちになる。

補正の説明は以上である。

岡田教育長

ただ今、12月に提案させていただく補正予算について説明があったが、何か質問はあるか。

三浦委員

この価格高騰の金額が336円から596円とあるが、市内全域ということでよいか。

藤井課長

そうである。お米は同じところから入れているため、各校同じである。

三浦委員

承知した。

倉本委員

益井さんの奨学金制度があるが、実際に動き出しているか。

藤井課長

令和7年度については、このたび12月で条例と予算を出し、実際、奨学生として第1号が出るのは令和8年度からになる。

倉本委員

令和8年度ということは、今年度末に募集をかけるのか。令和8年度に募集をかけるのか。

藤井課長

学校には、令和7年度末にはお知らせをする。令和8年度中に第1号の奨学生が決定するかたちになる。

倉本委員

承知した。

岡田教育長

その他いかがか。

各委員

特になし。

岡田教育長

では、給食費に対する補正と、益井俊雄奨学金は本人のご意向に沿って有効に活用させていただきたいと思う。このように議会の方で承認を得られるよう説明していきたいと思う。

藤井課長

行事等予定表（資料3）

資料3をご覧いただきたい。行事等予定表である。11月28日から12月31日までの行事予定表である。特に教育委員方へ出席していただきたい丸印のものについては、12月7日の浜田市人権・同和教育講演会と12月11日の令和7年度浜田市人権作品コンクール表彰式である。これについては、すでに郵送にて人権同和教育室からご案内をさせていただいていると思うが、ご都合がつく方はご出席をよろしく願います。

次回、12月22日の教育委員会定例会は、本日と同じく中央図書館で15時から開催予定であるため、ご出席をよろしく願います。

秋の読書週間イベントについて（資料4）

続いて資料4の説明をさせていただく。図書館の秋の読書週間イベントについてである。毎年、秋の読書週間に集中してイベントを行っている。たくさん掲載しているが、特に多く参加いただいたものをご紹介していきたいと思う。

まず、表の中央図書館実施分だが、(3)に図書館寄席とある。ここ最近、毎年させていただいており、楽しみにされている方が増えてきている。落語の上演だが、昨年31名の参加があったが、今年は50名とたくさん参加をいただいたところである。

裏面にいき、旭図書館実施分のところに、(2)続々おばけやしき図書館とあるが、旭図書館は、毎年、子どもが参加できるテ

ーマを変え、いろいろなイベントを実施している。昨年はクイズ形式のラリーのようなものを実施し、参加者 111 名であったが、今年はお化け屋敷を開催し、参加者 240 名という非常にたくさんの方に楽しんでいただいている。

三隅図書館実施分だが、(3)図書館でこびとさがしという体験型のイベントを実施した。昨年は別のイベントで参加者 146 名だったが、今年には 174 名と、やはり大変多くの子どもに参加をしていただいている。

旭図書館についても三隅図書館についても、一緒に何かできる体験型のイベントというのは評判がよく、参加者もたくさん来ていただけるため、またいろいろ工夫をして図書館に足を運んでいただけるようなイベントを行っていきたいと思う。

説明は以上である。

岡田教育長

今、2 つ報告があったが、私から 1 点補足させていただく。行事予定表の 12 月 7 日の浜田市人権・同和教育講演会について、私は常々「子どもの権利」をテーマに研修会が開催できないかと人権同和教育室に相談していた。今回、「こども基本法と権利条例」についてのテーマで講演を拝聴することになった。教育委員会にとっても大きなテーマであり課題であるため、時間があれば出席していただきたい。

ただいまの 2 点について、委員方ご質問等はあるか。

杉野本委員

人権作品コンクールの表彰式の日程について、今日初めて聞いたと思う。

鎌原室長

ご案内を火曜日に送付したため、今日辺りに届くのではないかと思う。発送が遅くなり申し訳ない。

杉野本委員

確認して返事をしたいと思う。

岡田教育長

その他いかがか。

各委員

特になし。

永田担当課長

令和 8 年浜田市二十歳の集いの開催について (資料 5)

資料 5 をご覧いただきたい。令和 8 年浜田市二十歳の集いの開催についてである。こちらについては、毎年 1 月 3 日に開催しており、来年は 1 月 3 日土曜日の 13 時 30 分から開催の予定である。会場については、例年同様、石中央文化ホールで行うこととしている。

今回の対象は、平成 17 年 4 月 2 日から平成 18 年 4 月 1 日生

まれの方で、浜田市在住者、浜田市出身者でなくても出席は可能であり、また、浜田市出身者の市外在住者も対象としている。対象者としては、令和3年3月に浜田市内の中学校卒業生が417人おられたため、その方々が対象となる。

主な内容だが、これも例年どおりで、市民憲章唱和から始まり、主催者挨拶及び来賓祝辞、代表挨拶、恩師によるビデオメッセージの上映を行う予定としている。

裏面をご覧いただきたい。出席者については、市長、副市長、教育長となり、来賓については、島根県議会議員、浜田市議会議員、浜田市教育委員会の委員方を来賓にお迎えして開催する予定としている。

参加案内については、9月末時点で浜田市内に住民登録のある対象者へすでに案内状を送付させていただいている。教育委員方には、本日封筒に入れてご案内を置かせていただいているため、12月17日までのところでご出席の報告をお願いします。

年始早々ではあるが、ぜひご出席いただけるようよろしくお願いする。

説明は以上である。

ご質問等あるか。

特になし。

岡田教育長
各委員

石橋室長

第7回（11月）市校長会資料（資料6）

11月の校長会で話したことを報告する。資料6をご覧いただきたい。11月は、デジタル学習基盤について、子どもたちの声でつくる授業についての2点について話した。まずは、いつものように、浜田市の学力と課題の確認をしていただいた。

では1点目、デジタル学習基盤についてである。文部科学省が発行している、初等教育資料の8月号と9月号で特集が組まれた。タイトルは「各教科等の目標の実現に向かう GIGA スクール構想のもとでの授業」である。その中で、ICT活用教育の第一人者、東京学芸大学教職大学院の堀田先生が、デジタル学習基盤が整っているか、またそれを使いこなすだけの情報活用能力を子どもたちは身に付けているかと問いかけ、まだだとすれば、少し焦った方がよいのかもしれないと述べておられる。それはどういうことか、それはなぜかを校長先生方に考えていただいた。大切なのは、デジタル学習基盤は、次期学習指導要

領の前提として機能していくことが想定されているということ。時代は大きく動いてきた。これまでのような『デジタルかリアルか』、『デジタルか紙か』といった二項対立に陥らず、『デジタルの力でリアルな学びを支える』との基本的な考えに立ち、バランス感覚を持って、デジタル学習基盤を積極的に活用した授業改善に取り組む必要があるということを校長先生方にお伝えした。

また、私たちの学校では、そのデジタル学習基盤を土台に何をしようとしているのか問いかけ、初等教育資料や中教審が発行した初等中等教育分科会、デジタル学習基盤特別委員会の資料などを基に、書かれていることを考えていただいた。

全国の学校では、このデジタル学習基盤を土台に、大きく動き出している。そして、その割合はどんどん増えてきている。当然のことに、デジタル学習基盤は、使えば使うほどスキルアップしていく。そこにたどり着いていないとすれば、その差は開く一方である。子どもたちの未来を考えると、「少し焦った方がよいのかもしれない。」ではなく、「焦るべきである。」と思うが、いかがかと校長先生方に投げかけた。

続いて、3 ページ。全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の回答から見えて来るものについてである。私は、質問紙調査の回答状況を眺めていて、四つのことを思うようになった。

一つ目、ICT 活用教育に関して、児童生徒と学校の捉えに差があるのではないか。二つ目、学校間や校種間の取組に差があるのではないか。三つ目、質問内容と ICT 活用教育に求められている姿は表裏一体なのではないか。四つ目、学校での一人一台端末活用が日常化されつつあり、公教育の必須ツールとしての認識が浸透してきたと言われるが、はたしてそう言い切れるのか。そこで、「児童生徒質問紙」及び「学校質問紙」の中から「ICT 活用教育」に関わる質問項目と回答を選び、表にまとめてみた。

資料 A の 1、2、3 をお開きいただき。まずは、A-1 児童生徒質問紙調査である。5 年生、あるいは中学 1、2 年生までに受けた授業で PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用してきたか。これは、子どもに聞いた質問である。浜田市の小学生、週 1 回以上が 36.1%で最も多い。さらには、月 1 回未満が 4.6%

で、これはほとんど使っていないということである。ほぼ毎日が最大値で 32.7%の小学校と、月 1 回以上が最大値の 45.7%と比べてみていただきたい。ここに大きな格差が見て取れる。

中学校も比べていただきたい。いずれも右側に寄っている。また、小学校と同じように、学校によって差があるということが見て取れる。また、小学校と中学校で格差があることも見て取れる。このまま時間が過ぎていけば、学校間の、あるいは小学校と中学校の差はますます開いていくと思う。

一方で、その下の学校質問調査 58 番をご覧いただきたい。これ以降は、割合に加えて学校数も載せている。これを見ると、先生たちが使わせていると想定している、子どもたちはそうは思っていないということがわかる。先生方は、ほぼ毎日、1 日に複数回使わせていると想定している、子どもたちはそう捉えていない。この違いはどこから生まれてくるのか。子どもたちはもっと高度なことを望んでいるのか。あるいは、ICT 機器を使うのは当たり前だと思っているのか。これらの視点で、職員室の皆さんで考えてみて欲しいと校長先生方に投げかけた。

次に資料 B、問題番号 59 番以降を見ていただきたい。児童生徒が自分で調べる場面では、児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させているか。これは、「自分で調べる調査では、ICT 機器を使わせてください」という思いが込められていると思わないかと校長先生方に問いかけた。60 番、自分の考えをまとめ、発表・表現する場面、61、62 もそうである。つまり、先ほど申し上げた視点 3 の質問内容と ICT 活用教育に求められている姿は表裏一体なのではないか。表裏一体、そういう場面で ICT 機器をどんどん使おうというメッセージが込められているのではないかと問いかけた。

続いて視点 4、学校での一人一台端末活用が日常化されつつあり、公教育の必須ツールとしての認識が浸透してきたと言われるが、はたしてそう言い切れるか。校長先生方はどう思われるか。うちの学校は必須ツールであると思われるか。かたくなに使わないという人はもういらっしやらないと思うが、うちはまだまだ必須ツールとまでは言えないなど、いろいろなことを思われたと思う。

昨日、ICT 機器を活用した授業改善指定校の石見小学校の公開授業があった。70 名近い先生方が見に来られた。石見小学校

では、高いレベルで ICT 機器を活用し、子どもたちのレベルも随分上がってきた。まさに必須ツールになった学校であると言えると思った。

資料 A-3 は、子どもたちの回答である。割合だけでなく、浜田市の児童生徒数も載せている。自分の技能を振り返って回答している。これを見ると、子どもたちはいろいろなことができるようになっており、浜田市も、島根県内も大きな差は認められないと思う。

以上が、全国学力・学習状況調査の質問紙の回答から見えてきたことである。

いろいろな格差が見えてきたが、この差は、埋めていかなければ、10 年後、子どもたちは「使わないまま」ではなく「使えないまま」社会に出ていくことになるということを頭において、ICT 機器の活用を進めていただきたいとお願いした。

続いて (4) AI ドリルの活用状況についてである。先月もお話したが、ベネッセコーポレーションから WAU の提供をいただいている。WAU とは、1 週間のうちに、全体の人数を分母に何人がログインをしたかを表す割合のことである。その週に 1 度ログインするとカウントされ、一人が 2 度、3 度と何度ログインしてもそれは 1 カウントのままとなる。それを見ると、2 学期の始めに活用が多くなった。9 月の後半は、少し停滞気味であった。これは、運動会や体育祭があったからではないかと思う。小学校の「よく使う学校」は 90% を超えている。一方で「使わない学校」は 30% 程度である。中学校の活用率は減少傾向にある。小中学校間の格差が広がりつつある。中学校の「よく使う学校」は 50% を超えている。中学校の「使わない学校」は 1% 程度である。おわかりだと思うが、AI ドリルも活用の格差が広がりつつあると言えるということを校長先生方にお話した。そして、とにかくどんどん使っていただきたい。まず必要なのは、初期指導である。ここをくぐり抜けないと、使えるようにはならない。AI ドリルは使わなければ効果は出ない。近い将来、必ず効果が出ると信じて、まずは使わせていただきたい。児童生徒は徐々に使えるようになり、意欲も増してくるはずだとお願いした。その後だが、私自身、積極的に活用しておられる学校の雲城小学校や浜田東中学校、石見小学校などに活用の様子を見に行かせていただいた。校長先生や教頭先生、担当の先生に

インタビューをしている。それを学力向上推進室だよりにまとめ、各学校に配付し、参考にしていただいている。

なお、資料の最後に最新の活用率のグラフをつけている。この席でご報告するデータは、どうしても1か月遅れになるため、最新値として報告させていただくことにした。おかげさまで、その後、右肩上がりでも活用していただいているようである。しかし、これは平均値のため、そうでない学校もあるということになる。12月の校長会で、このグラフをお示しし、積極的に活用を呼び掛けていこうと思う。これに関して、ここに来る前に聞いたことを報告させていただきたいと思う。雲城小学校では、AIドリルを積極的に活用しておられることはお伝えしたが、5、6年生の学力が上がってきたと校長先生から教えていただいた。出来ない問題を繰り返し行うため、だんだんとできるようになった。下位層の子どもたちの正解が増えてきて、成績の平均値が上がってきたということである。今後さらに詳しく聞き取りをし、各学校に広めていきたいと思う。

最後に、来年度の全国学力・学習状況調査の準備についてお願いをした。冒頭、教育長も申されたが、来年度の全国学力・学習状況調査では、中学校の英語で文部科学省のCBTシステムであるMEXCBTを使った調査が行われる。機器操作等に慣れていない状況では、英語の調査を受ける前の段階で、生徒がつまづくことになる恐れがある。一人一台端末を使用し、聞き取り・即興での発音・録音・キーボード入力等を日常的に行い、操作に習熟しておくことが必要となるため、今から準備をしていただくようお願いした。そして、堀田龍也教授の結びの言葉を読んでもらった。また後ほどお読みいただきたいと思う。

続いて、2番目、令和7年度子どもたちの声でつくる授業についてである。令和7年度の折り返しを過ぎた「今」だからこそ、一旦立ち止まり、各学校の学力向上に関する取組を振り返っていただきたいと校長先生方をお願いをした。

以上、11月の校長会の報告を終わる。

今、本当にいろいろな課題が見えてきて、それに対して、学力向上推進室がどう現場に関わってきたかということ少し見えたところもあったのではないかなと思う。

委員方からご質問、ご意見等をいただきたいが、いかがか。室長が言われた冒頭のところで、堀田先生の枠組みがあり、

岡田教育長

倉本委員

石橋室長

最後の、少し焦った方がよいのかもしれないという言葉が伝えられた時に、校長先生方の反応はどうであったか。

倉本委員

静かであった。ただやはり、よく使っておられる学校と、そうではない学校があるため、反応はまちまちだと思う。

学校間格差や、地域間格差を縮めてあげられるのは、こういうタブレットを使った授業をしていくというのは、一つのやり方だろうと思う。どんどんそういったことが進んでいくといいと思う。

もう一点、先ほど AI ドリルを使った雲城小学校の良い例を出されたと思っているが、一つ言われたのは、中学校の利用率が減少傾向にあるということ。受験やいろいろなことで大切な時期だとは思いますが、なぜ利用率が下がったのか。例えば中身が合わないとか、時間がないとか、そういったところの分析はしておられるか。

石橋室長

先ほどの話の中で少し触れたが、10月のデータを基に、11月の校長会で話をした。資料の一番後ろにグラフをつけているが、そちらをご覧くださいと、再び右肩上がりになってきている。中学校の先生に話を聞くと、教科によって使い方がまちまちであったり、ベテランの先生は少し敬遠されているが若い先生はどんどん使っておられたりということもある。実際、これは雲城小学校のグラフであるが、90%以上の児童が現在使っている。その辺り、やはり取組姿勢によって差があると思う。教科によってもあると思うし、小学校と中学校での使い方の違いもあると思っている。浜田東中学校がとても熱心に始められた。最初はゼロだったが、ちょっと関わらせていただくことで上がってきているため、そういった実践例も各学校に紹介していきたいと考えている。

倉本委員

子どもたちが持っているタブレットには、先ほどの英語の学力調査の関連で、ヘッドセットが必要になってくるということがあったが、ヘッドセットは元々タブレットについていて子どもたちはそれを持っているのか。

石橋室長

追々購入していく。浜田市は今調査をかけて、不足分をこれから補充していこうと思っている。

倉本委員

元々持っているものではないか。

石橋室長

そうである。私がここに入る前に今福小学校にいたが、学校予算で全て購入した。それができていない学校もあると思う。

倉本委員	そうすると、これから対応していくためには全員が持つ必要が出てくるということか。
石橋室長 倉本委員	そうである。持っていないと英語のテストが受けられない。高校生はみんなマイクがついたヘッドセットを持っている。それでやり取りができるが、中学生がどういう状況かわかるか。
石橋室長	実際に直接見たわけではないが、やはり同じようにマイクがついたヘッドセットを使用して、録音をして、それが良い発音であるかどうかというのを評価していくということである。
倉本委員 岡田教育長	承知した。 先日、教育長会の場でもそういった話が出たが、決して高いものではなくても精度がいいということもあり、それがないと子どもたちがテストを受けられないため、そこはきちんと調査をしていく。
倉本委員	おそらく、マイクがなくても入るが、他の雑音も拾ってしまうため、それがテストに大きく影響するかもしれない。できればそろえてあげていただきたい。
岡田教育長	はい。そういった影響がないように、調査をして進めていきたい。
三浦委員	AI ドリルだが、学校差などがあるというところで、(4)の最後のところにまずは初期指導を丁寧に行ってくださいとあるが、初期指導が学校間で差がなく同じレベルでできるのか、差があるのであれば、その辺りのすり合わせというか、指導みたいなことが今後必要になってくるのか、どういう状況なのか教えていただきたい。
石橋室長	初期指導も段階的にあり、一歩ずつ階段を上がっていくような、そういった状況であると思う。各学校に ICT 支援員を配置しているため、ICT 支援員と連携しながら学校で対応していただいている。あとは、研修会をできるだけ多く持ち、先生方の初期指導をしていくことも考えている。
岡田教育長 杉野本委員	その他はいかがか。 昨日、ICT を活用した授業改善について、指定校の授業に私も行かせていただいた。自分もなかなかついていけないぐらいだが、子どもたちが機器を使って学習の効果を高めるための活用をされており、着実に進んでいるなど感じた。同じ中学校区の別の学校からは、全職員が来て研修としてやっておられる姿

勢が見え、とてもいいなと思った。子どもたちが ICT に関わる能力というものが、差があると授業づくりも困難になってくると思うが、小学校区辺りで力を入れていく部分は歩調を合わせて行くと、今度中学校へ行った時にも良いと思う。

校区の中学校の先生も何人か来ておられたが、小中連携ということも大事だと思う。小中連携をしながら、一つの ICT のモデル校区のような感じになっていけば、中学校区にも波及していき良いのではないかと思った。子どもたち一人一人がみんな一生懸命やっていて、体育館の広いところでたくさんの職員に囲まれても普通の授業のようにリラックスして学習に集中できるというのは、それだけ使いこなしているからできるのだろうという気がする。

岡田教育長

小中連携教育を毎年まとめて冊子等にして報告しているが、そこでどの授業を取り上げるかというのをお考えだと思うが、杉野本委員が言われたように、ICT の活用、特に AI ドリルの活用をもしどこかの校区がやっていただけるのであれば、そういうかたちで広めていくこともありかもしれない。

石橋室長

学校を回らせていただくときに、縦のつながりと横の広がりという言葉をお願いをしているが、やはり将来どんな姿を担っていくことを求められているかを考え、今やっていることはきちんとやりましょうという縦のつながりと、横の広がり、小中連携もそうだと思うし、その辺りをこれからはしっかりお願いをしていきたいと思う。

岡田教育長
浅津委員

その他はいかがか。

春と秋に小学校と中学校を回らせていただき、印象として、小さい小学校や中学校の方が、ICT 機器が活用できていると感じた。例えば、学校に来ていない子に向けての配信が出来ていたりするのを見かけた。今聞いてみると、石見小学校も ICT 機器を活用できているということであったが、児童生徒が多いと活用が難しいとか、少ない方がやりやすいとか、そういう傾向は特にないか。

石橋室長

私の経験で申し訳ないが、やはり規模の小さい学校の方が、最初の指導はしやすいと思う。しかし、だんだんと大きな学校もその必要性や系統的な指導の大切さ、あるいは最初の出合わせ方をどうすればいいのかということ、研修を進められて、今では大きいから小さいからという差はなくなっている

浅津委員
岡田教育長
各委員

と思う。加えて、当初は環境が整えにくかったが、その辺りは整理していただいたため、その差も減ってきていると思っている。

ありがとうございました。

その他はいかがか。

特になし。

山本課長

第5回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会の会議結果について（資料7）

資料7をご覧いただきたい。第5回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会の会議結果について報告させていただく。

第5回の検討委員会だが、10月16日木曜日に、ここ中央図書館で開催した。委員のうち、10名出席、4名が欠席であった。議題については、第4回検討委員会の意見を踏まえた修正案について、保存・伝承拠点の運営方式・運営体制の方向性について、検討スケジュールについて協議を行った。運営方式については、委員方から、運営体制を考えていく中では神楽関係者だけでなく、幅広い方が参加できるような環境を作っていかなければならないとか、民間のノウハウを活用することは必須であるが、この拠点については貴重な文化財の保存や調査研究機能などの公益性の高い業務を担っていくことから、公益と施設のバランスの取れた運営が求められるということ、拠点を担う業務を強化する組織が必要ではないかというようなご意見を頂戴した。

第6回の会議については、既に11月18日に開催した。内容については、次回の教育委員会定例会でも報告させていただくが、そこでは、これまでの委員方のご意見も踏まえ、基本構想案ということでたたき台を皆さんにお示ししてご意見を頂戴したところである。

次回の委員会については、12月9日に第7回の基本構想検討委員会を開催する予定としている。それが最後の検討委員会になる予定である。

説明は以上である。

委員方からご質問等があるか。

特になし。

岡田教育長
各委員

鎌原室長

令和7年度浜田市人権作品コンクール入賞者について(資料8)

それでは資料8をご覧いただきたい。令和7年度浜田市人権作品コンクール入賞者についてである。毎年、人権作品展ではポスターや標語について募集をしている。今年の見考結果を表にして記載しているため、ご覧いただければと思う。

1番、中学生のポスターの部については、76作品の応募があった。昨年に比べて減少しているが、提出された学校は昨年と同様で、応募された生徒が少なくなっており、また来年に向けて応募を呼びかけたいと思う。

2番と3番の作文の部については、小学校、中学校ともに応募作品数は横ばいである。小学校の作文の部で、上から二番目の方は名前を伏せているが、ご家族から要望があり、作品の公開は良いが名前は伏せてほしいということがあったため、このようにしている。

4番の標語については、105作品の応募があった。今年度から応募方法を変更し、スマホからでも応募できるようにしたところ、昨年度より増加した。

続いて裏面をご覧いただきたい。表彰式について、先ほど12月11日というお話をさせていただいた。案内を今週の火曜日に発送したため、そろそろ届くと思うが、ご出席のほどよろしく願います。

作品展示については、市役所本庁1階ロビーにて12月15日から26日まで展示させていただき、続いて年明け、世界こども美術館で1月17日から25日まで、3階の多目的ホールで展示を行うため、またご覧いただければと思う。

以上である。

ただいまの件に関して、ご質問等があるか。

特になし。

岡田教育長
各委員

4 その他

(1) その他

岡田教育長
日ノ原係長
岡田教育長

続いて、その他だが、事務局の方で何かあるか。

特になし。

その他のところで、委員方からご報告や質問があれば願います。

各委員

特になし。

次回定例会日程

定例会 12月22日(月) 15時00分から

浜田市立中央図書館 2階多目的ホール

次々回定例会日程

定例会 1月26日(月) 15時00分から

浜田市立中央図書館 2階多目的ホール

15:27 終了